

## 取扱説明書 / 施工要領書

このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。  
ご使用前に本書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後もすぐ取出せる場所に大切に保管してください。

### 【施工業者様へ】

施工後は、お客様に必ず本書をお渡しください。

### 【お客様へ】

本書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。  
不適切な使用により事故が発生した場合、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。  
転居される場合、次に入居される方に本書をお渡しください。

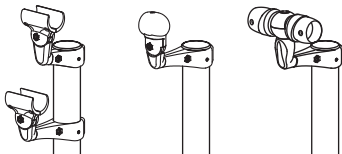
### マークの種類について

- ⚠ 警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ⚠ 注意 軽傷または物的損害が発生する可能性がある内容
- 🚫 禁止行為
- ❗ 必ず行う



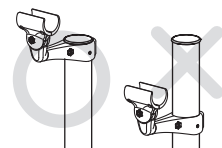
### 安全上のご注意

- ❗ 支柱付タイプのブラケットと組合せて使用する。



- ❗ 1番上に取り付けるブラケットは、必ず支柱上端に取り付ける。

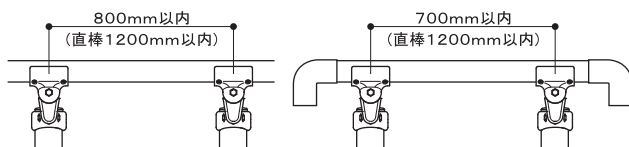
ブラケットを取り付ける高さに合わせて支柱をカットする。



### ⚠ 警告

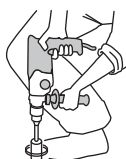
- ❗ ブラケット(支柱)ピッチは下記寸法を必ず守る。

- 曲がる手すり棒の場合
  - ブラケット(支柱)3個以上使い …800mm以内
  - ブラケット(支柱)2個使い(1スパン) …700mm以内
- 直棒手すりの場合
  - 1200mm以内



- 🚫 コア抜きは両手だけで行わない。

コンクリートのコア抜きは振動ドリルに膝等を当て、両手だけで行わない。  
コンクリート内の鉄筋にコアドリルが当たると、振動ドリルにカウンタートルクが働き、骨折などケガをする恐れがある。

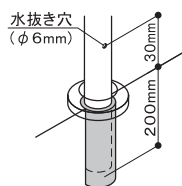


- 🚫 モルタルに急結剤を混ぜない。

アルミと反応し、支柱を腐食させる恐れがある。

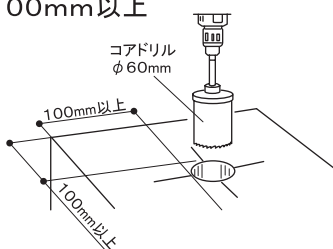
- ❗ 支柱には必ず水抜き用の穴があいている状態にする。

支柱に設けられている水抜き用の穴は必ず床上来るようにする。  
もし施工上、支柱の切断等で水抜き穴がなくなった場合は、新たに水抜き穴をあける。  
支柱内の破損の原因になる。



### ⚠ 注意

- ❗ へりあき寸法は100mm以上はなす。



- ❗ 施工時、製品に付着した切り粉やモルタルは速やかに清掃する。

表面にキズがつき腐食の原因となる。

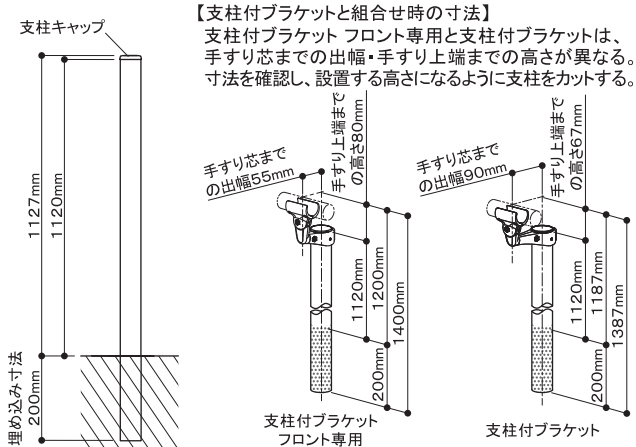


- ❗ 独立基礎の場合は250×250×H500mmのコンクリート基礎とする。

- ❗ タイルにコア抜きする場合は、タイルが割れないように十分注意する。  
また、まれにモルタル硬化後に、タイルにヒビが入ることがあるので、事前に施工主に確認する。

# 施工手順 支柱の固定方法

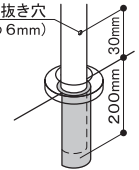
## ① 設置位置を決める。



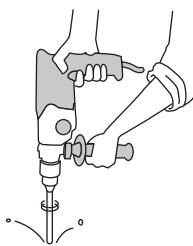
⊘ 支柱は1000mm以上カットしない。

❗ 支柱用側面ブラケット (BJ-25ST) または、支柱用側面ブラケットN (BJ-127ST・BJ-128ST) に取付ける場合は、支柱下部より380mm以上カットする。

❗ 支柱をカットし、水抜き穴がなくなった場合は、新たに水抜き穴をあける。支柱内の破損の原因になる。

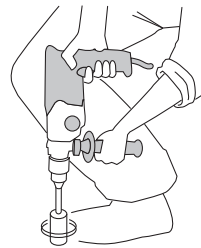


## ② 振動ドリルで下穴(φ6mm)をあける。



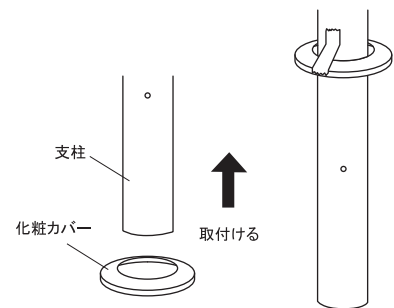
## ③ コアドリル(φ60mm)で深さ220mm以上の穴をあける。

※φ60、深さ220mmが確保できない場合、複数本の支柱のうち1本はφ50程度、深さ120mm以上でも可。

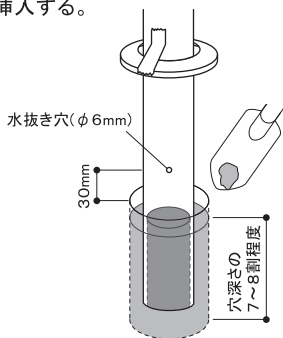


⊘ コンクリートのコア抜きは振動ドリルにて膝等を当て、両手だけは行わない。コンクリート内の鉄筋にコアドリルが当たると、振動ドリルにカウンタートルクが働き、骨折などケガをする恐れがある。

## ④ 支柱の下面から化粧カバーを取付け、化粧カバーが落下しないようテープで仮止めする。 ※化粧カバー後付けは除く。

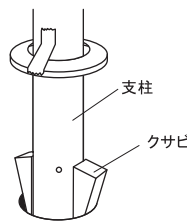


## ⑤ 穴深さ7から8割あたりまでコンクリートを流し込み、支柱の内部にコンクリートが充填されるよう挿入する。

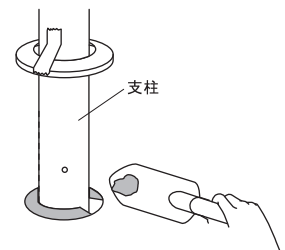


❗ 水抜き穴は、必ず床上来るようにする。

## ⑥ 支柱が垂直になるようにクサビで調整した後、穴にモルタルを流し込む。



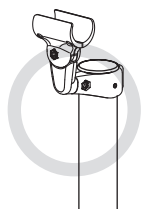
## ⑦ モルタルが仮硬化したらクサビを取除き、クサビ跡をモルタルで補修する。



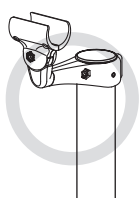
⊘ モルタルに急結材を混ぜない。アルミと反応し、支柱を腐食させる恐れがある。

## 支柱付ブラケット取付け時の確認事項

● 支柱上端には支柱付ブラケット フロント専用、支柱付ブラケットどちらも取付け可能。



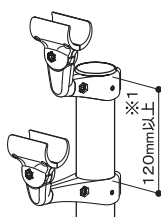
支柱付ブラケット  
フロント専用



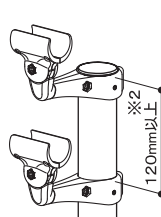
支柱付ブラケット

● 支柱付ブラケット フロント専用・支柱付ブラケットを使用し、2段手すりとして取付け可能。但し、支柱付ブラケット フロント専用は支柱とのすき間に指を挟む恐れがある為、上段にのみ取付け可能。取付ける際は、ブラケットの取付け高さピッチを120mm以上にする。

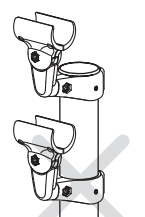
※利用者が上下の手すり間に頭を入れてしまうなどの恐れがある場合は、首挟み防止の観点からブラケットの取付け高さピッチ※1・※2の寸法を推奨します。



上段 支柱付ブラケット  
フロント専用  
下段 支柱付ブラケット  
※1 120mm以上140mm以下  
または、258mm以上



上段 支柱付ブラケット  
下段 支柱付ブラケット  
※2 120mm以上140mm以下  
または、269mm以上



上段 支柱付ブラケット  
フロント専用  
下段 支柱付ブラケット  
フロント専用

**マツ穴株式会社**  
〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号  
TEL: 06-6774-2255 FAX: 06-6774-2248  
https://www.mazroc.co.jp/

2020年12月1日制定 【00】